

「令和8年産水稻の高温対策のポイント」

令和8年7月8日
埼玉県農林部

梅雨明け後の猛暑に備え、高温対策を実施しましょう。高温障害の軽減には施肥管理が重要ですが、養水分を吸収する根の活性を維持することも鍵となります。ほ場を良く見て回り、生育に応じた栽培管理を徹底しましょう。

1 気象予報

関東地方は6月7日頃に梅雨入りし、曇天や降雨の多い梅雨らしい気象となり、気温はおおむね平年並で推移しました。日照不足の影響で水稻の生育は緩慢で軟弱傾向となっています。

梅雨明け後は猛暑となる見込みです。農作業時の熱中症にも注意しながら高温対策に取り組みましょう。

2 高温対策のポイント

(1) 生育ステージの把握と適期作業の実施

高温により出穂期が前進化することがあり、特に、中早生品種の「コシヒカリ」や「彩のきずな」ではその傾向が顕著です。追肥や防除の適期が前倒しになるため、ほ場をよく観察し、適期作業に努めましょう。

農業技術研究センターでは農作物発育予測アプリ「咲き玉くん」を公開しました。水稻の「移植日」を入力すると、「出穂期」や「収穫適期」などがいつ頃になるかが表示されます。作業計画を立てる上での参考に御活用ください。

◆ 農作物発育予測アプリ「咲き玉くん」◆

画面上で

「咲き玉くん」二次元コード

①最寄りのアメダス地点選択

②対象作物と品種

③播種・移植日等

を入力して送信すると

予測結果が画面上に表示されます!



アプリの利用は無料ですが、通常の通信料は利用者の負担となります。予測結果の向上に努めていますが急激な気象変化や栽培管理等によって前後する可能性があり正確性を保証するものではありません。本プログラムの利用により、農作物生産に何らかの支障が出た場合、経済的補償等の責任を負うことはできません。

(2) 水管理

中干し後の水管理は、基本的に出穂前後各1週間は深水で管理し、その期間以外は間断かん水を行い、根の活性維持を図ります。

本年は、梅雨の影響により、中干しが不完全なほ場が多く見受けられます。そのような場合は、間断かん水で田面が露出する期間を少し長くとり、田面を乾かすように管理しましょう。土壌がやわらかいまま収穫期を迎えると、コンバインが入れないことによる刈遅れや、土壌を固めるための早期落水につながり、高温下では玄米の品質低下のリスクが高まります。

普通期栽培では、分げつの発生が旺盛になると考えられます。移植後30日程度で有効茎数が確保できたらすみやかに中干しを行いましょう。

(3) 早期・早植栽培（5月移植）の穂肥

農業技術研究センターの5/1植「コシヒカリ」及び5/20植「彩のかがやき」の生育はほぼ平年並となっています（6月30日現在）。

穂肥適期にほ場をよく観察し、群落の葉色が「4」を下回った場合は、追肥を行いましょ

う。

「コシヒカリ」：出穂前 18 日頃に窒素成分で 2 kg/10a 程度

「彩のかがやき」：出穂前 23～22 日頃に窒素成分で 3 kg/10a 程度

「彩のきずな」：出穂前 25～23 日頃に窒素成分で 3 kg/10a 程度

基肥一発肥料体系でも高温下では緩効性肥料の溶出が早まり、登熟期に期待される養分供給量が不足する場合があります。穂肥施用時期に葉色を確認し、「4」（群落）を下回った場合は、上記に沿った追肥を行いましょう。

（４）普通期栽培（６月移植）の中間追肥

穂肥の施用までに肥料切れが発生するとイネ体の消耗が激しくなり、穂肥を施用しても十分な効果が得られず玄米の品質低下を招くことがあります。葉色の低下がみられる場合は中間施肥を検討します。葉色が「4」を下回った場合は、中間追肥を行いましょう。

「彩のかがやき」：移植後 30～35 日頃に窒素成分で 2 kg/10a 程度

「彩のきずな」：移植後 20～25 日頃に窒素成分で 1 kg/10a 程度

※ 詳しくは、ホームページ掲載の「彩のかがやき」や「彩のきずな」の栽培指針・栽培暦を御覧ください。

https://www.pref.saitama.lg.jp/a0903/gi_jututaisaku/08suitoukouontaisaku.html